

# コミュニティのミライを考える

草加西部地区

こんなまちになったらいいな

第5回

## 地区別懇談会 の記録

日時 : 令和4年11月25日(金) 18:30~21:00  
場所 : 氷川コミュニティセンター  
参加者数 : 18名

### プログラム

1. 開催にあたって
2. コミュニティプランの策定について
3. コミュニティプラン素案について
4. 意見交換  
ワーク① : プロジェクトのとりまとめ  
ワーク② : コミュニティプランの進め方
5. 検討結果の発表
6. 今後の進め方
7. 閉会・次回のご案内

### 当日の様子



## 当日の記録

- ワーク①②では、第3回地区別懇談会と同様に5班に分かれてグループワークを行いました。内容としては、ワーク①では各プロジェクトの内容を確認し、プロジェクトシートを完成させました。ワーク②ではプロジェクトの実施を始め、コミュニティプランの進め方について意見交換しました。

### 当日検討したプロジェクトの一覧と、モデルプロジェクトの候補、 最終的に選ばれたモデルプロジェクトは以下の通りです。

※第5回に参加していただいた、各班員の皆様の氏名は関係者様以外に公表いたしません。

各班で検討したプロジェクト	
<b>A班</b>	
03. 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり	
06. 公園や空地を活用した『子ども』×『防災』イベント	
<b>B班</b>	
01. ボランティア人口を増やすための仕組みづくり	
02. リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援	
05. 安全なまちをめざした地域の見守り運動	
<b>C班</b>	
07. 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり	
08. 草加西部地区の魅力PR	
11. 母国の文化や言葉の交流による関係づくり	
<b>D班</b>	
04. 多世代交流・支えあいの居場所づくり	
09. 公共空間を活用した定期的なマルシェ	
10. 各町会の交流に向けた大盆踊り大会	
<b>E班</b>	
12. 自然・歴史・文化の地域資源を巡るウォーキングルートづくり	
13. 地域の魅力を伝えるご当地キャラクターづくり	
14. 農の風景を守っていくための体験農園・貸し農園の普及啓発	

### 次頁以降に、ワーク①の検討で出された意見をプロジェクトごとに掲載します。

(意見は、その該当箇所ごとに、以下のような吹き出しの形で表示しています)

(例)

<b>プロジェクトの概要</b>	ゴミ拾いなど自分のできることを探してもらえるきっかけになるとよい
ボランティア活動に参加したいと思っていても参加できていない方に、気軽に参加してもらえるボランティア活動を増やします。ボランティア活動が持続するためのプラットフォームを作り、ボランティアに参加しやすく、受け入れやすい環境を整えていきます。また、ボランティアを継続させるために、ボランティア参加者のメリットとなる仕組みを作ります。	



# 01



テーマ：つながり・支え合い

## ボランティア人口を増やすための仕組みづくり

### プロジェクトの目的

目的が抽象的なので、取組を進める中で、目的を明確化した方がよい

ボランティアに参加しやすい環境・仕組みをつくり、ボランティアへの参加者人口を増やしていきます。他プロジェクトと連動しながら、参加者人口を増やすことで、活発な地域活動を推進していきます。

### プロジェクトの概要

ゴミ拾いなど自分にできることを探してもらえらるきっかけになるとよい

ボランティア活動に参加したいと思っても参加できていない方に、気軽に参加してもらえるボランティア活動を増やします。ボランティア活動が持続するためのプラットフォームを作り、ボランティアに参加しやすく、受け入れやすい環境を整えていきます。また、ボランティアを継続させるために、ボランティア参加者のメリットとなる仕組みを作ります。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 草加市ボランティアセンター
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 放課後子ども教室

## プロジェクトの全体像

図書館ボランティアの登録者は100名程度いる(主にリタイア世代)。参加の理由は時間的余裕、本が好き、楽しさを感じているなどがある。ボランティアをする方にとってのメリットを把握する必要がある

### STEP 1

■ ボランティア団体との連携

#### ボランティア団体の現状と課題、要望を調査

・中心メンバーと賛同者で、活動する上での問題点と課題、どのような方にボランティア活動に参加してほしいかなどを現在、活動している団体にヒアリングし、把握する。

#### 気軽に参加しやすいボランティア活動を検討

・気軽に参加しやすいボランティア活動とは何かについて、アイデア出しをする。

・既存のボランティア活動に参加のハードルを下げる工夫を加える。

・他のプロジェクトと連携しながら、参加しやすいボランティア活動を増やしていく。

※例：清掃活動など

### STEP 2

● アプリ開発等に詳しい人の協力  
■ トラブルを予防する仕組み

#### ボランティア活動が持続するためのプラットフォーム・仕組みを作る

・いつ、どこで、何人程度ボランティアを受け入れたいなど、募集要件などがわかるプラットフォーム(ボランティアタウンワーク)を作る。

・ボランティアを継続させるために、ボランティア参加者のメリットとなる仕組みを作る。例えば、ボランティアポイント制度を導入し、地域通貨のような形で活用するなど検討する。

#### ボランティア活動を周知・マッチング

・プラットフォームを活用しながら、STEP 1 で検討したボランティア活動を周知し、ボランティア活動と参加希望者をマッチングする。

### STEP 3

#### 受入れ側・参加する側のそれぞれの問題点・課題を把握

・ボランティア活動の受け入れる側・参加する側のそれぞれの問題点・課題を把握し、プラットフォームや仕組みに反映させる。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・参加しやすいボランティアの選択肢を増やすことで、気軽に参加ができる雰囲気ができる！
- STEP2 ・ボランティアをすることで、「ボランティアをしてもらえらる・呼べるポイント(サービスと交換)」とすると良いのでは！
- STEP2 ・地域の企業にも協力を促し、ボランティアに積極的に参加してもらえらる工夫を施しては！

掲示板を活用し、アナログで初めてもよいのでは！  
ちょっとした困り事が書き出せるとよい

ちょっとした困り事の解決例として…  
①玄関まではごみを出せるが、収集場所までは運べない方のニーズを把握  
⇒ニーズの把握は、ゴミ袋を色分け(黄色)することで対応できるのでは？  
②玄関まで出してもらって、通勤時のサラリーマンなどが運び



# 02



テーマ：つながり・支え合い

## リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援

### プロジェクトの目的

最終目標は、スポーツ教育として、そこに行きつくまでの遊びからスタートするべき

指導者が不足していて、部活動や課外活動ができていない子どもたちのために、子どもたちが安心して、運動ができる環境をつくり、地域でスポーツ教育の推進につなげていきます。また、高年者などがスポーツ教育に関わることで、生きがいづくりにつなげていきます。

### プロジェクトの概要

スポーツ教育のニーズの把握と担い手の発掘をしながら、高年者が生きがいを持って、公園などで子どもたちの遊びや運動の見守り・支援をするための仕組みを作ります。取組を実行し、地域に根付かせることで、各種団体とも連携したスポーツ教育の推進を進めていきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ スポーツ指導者養成・団体育成事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 学校応援団

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 子どもたちのスポーツ教育のニーズの把握と担い手を発掘する

- ・中心メンバーと賛同者で、小中学校、教育委員会などの協力のもと、子どもたちのスポーツ教育のニーズを把握する。未就学児のニーズも把握する。
- ・子どもたちに運動を教えたい高年者などの担い手を地域の方々と連携しながら、発掘する。

### STEP 2

■ 運動をする場所の確保

#### 子どもたちが安心して遊びや運動をするための環境を考える

- ・STEP 1の内容を踏まえて、子どもたちの対象年齢や支援内容などを検討する。
- ・安全管理の観点から教育施設などとの連携が困難な場合は、公園などで取組を実施することも検討する。使用する場所（公園など）の許可や、実際に活用できる時間帯などの具体的な調整を行う。

### STEP 3

● 地域で活動したい高年者など

#### 運動見守り支援員を募集・配置する

- ・企画内容をもとに要件を定め、STEP 1で発掘した方々を中心に運動見守り支援員を募集する。
- ・高年者が子どもたちの運動や遊びを見守り・支援することを目的とした「運動見守り支援員」を公園などに配置する。

● 曜日の△時に支援員がいるとわかると、保護者も安心して、遊びに行かせることができる

■ 安全管理対策(ケガなどの防止)  
▲ 取組を周知するためのチラシ

### STEP 4

#### 取組を周知・実行する

- ・町会・自治会や学校、地域活動団体等に協力を仰ぎ、取組を周知する。
- ・対象によって、支援内容が異なることが予想される。未就学児や小学校低学年などを対象とする場合は、運動見守り支援員が走り方やボール遊びなど簡単な運動を教える。

### STEP 5

#### 各種団体との連携を模索する

- ・取組を実行し、地域に根付かせた後、各種団体との連携を模索する。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・高年者が子どものスポーツ教育に関わることで、生きがいづくりにつながるのでは！
- STEP2・いきなりスポーツ教育と言っても難しい。高年者などがかけっこやボール遊びなど簡単なことを教えることから始めては！
- STEP2・子どもたちだけで外で遊ばせるのは不安といった声があるため、見守りするだけでも意味がある！



# 03

プロジェクトの03、04、07がどれも「場づくり」の内容なので、「場」としては統合して、内容を分けていってはどうか



テーマ：つながり・支え合い

「解決を目指す」を目的にしなくてもよいのでは

## 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり

1つの「場」に色々な機能があるとよい  
まずは間口の広い「場」をつくるのが大事

### プロジェクトの目的

地域の中に気軽に立ち寄れる場所を増やすことで、身近な場所で交流・つながりが得られるきっかけをつくり、おしゃべりやちょっとした相談の中から、生活の悩みや困りごとの解決の糸口が見つかる機会を増やします。また、空き家などを生かした居場所づくりによって、使えるのに使われていない場所の発掘と活用につなげていきます。

### プロジェクトの概要

色々なひとがゴチャッとこった煮で集まれることが大事

空き家など、使えるのに使われていない場所を活用して、地域の住民や学生、子ども達、高年者、地元の企業、社会福祉協議会など、様々な人が参加したり運営に関わったりすることのできる居場所を運営します。またその中で、様々な年代や分野の人達がふらっと気軽に集うことができるような企画を実施したり、悩みや問題の解決の糸口を得られるような情報や相談の機会を提供したりしていきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ 都市計画マスタープラン推進事業
- ◆ 介護予防普及啓発事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ 創業支援事業
- ◆ 空き家バンク
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 子育て支援講座

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

■ 地域の人へのヒアリング（ニーズを明らかにする）

#### 活動メンバーを集めて、地域の中の居場所に関するニーズを探る

- ・地域に関わりのある集まり等を通じて、居場所づくりや空間活用・地域コミュニティなどに関心のあるメンバーを集める。
- ・活動メンバーを中心に、地域の中で居場所を必要としている人や、地域の中で困りごとを抱えていたり孤独を感じている人などがどの位いるのか、現状を把握する。

### STEP 2

● 居場所探しや運営に関わる協力者  
▲ 居場所として使えそうな場所候補

#### カフェのように気軽に集える居場所をめざして、使えそうな場所を探す

- ・カフェのように気軽に行ける場所をめざして、市内外の空き家活用や居場所づくりの事例を調べる。
- ・メンバーや関係者の持つつながりや情報網を生かして、地域の中で候補となりそうな場所や物件を探す。地域の中にある公共施設（氷川コミュニティセンターなど）の活用も検討する。また併せて、多様な参加の形の1つとして、オンラインでの開催や参加の方法も検討する。

#### 居場所の企画・運営に協力してくれる仲間を増やす

- ・活動に協力してくれる人がいそうな地域内の団体・組織などに働きかけて、協力者を募る。またその中で、「無理なくできること・得意なことを中心に協力してもらう」、「協力してもらったことがどの位役に立ったかを伝える」など、協力者のモチベーションが継続・向上するような工夫をしていく。

### STEP 3

■ 居場所運営のボランティア活動を有償とするかどうかの検討

#### 居場所づくりの事業としての全体像をまとめる

- ・居場所開催の頻度（常設か、隔週かなど）や、より幅広い人材（地域の大学生等）を巻き込んだ形での運営・開催について検討する。
- ・活動が継続的なものになるように、場所の使用料や協力者への報酬などを含め、どの様にプロジェクト全体の採算性を確保するかを検討する。

### STEP 4

● 実際に地域で居場所づくりを経験したことがある人の協力・助言

#### 居場所の運営を実際に行う

- ・実際に地域の中で、誰でもふらっと立ち寄れて、気軽におしゃべりや交流ができるような居場所を運営する。
- ・パンやクッキー・野菜・コーヒーなどを販売するなど、通りすがりの人が気軽に足をとめて立ち寄れるような仕掛けをして、人を呼び込む。

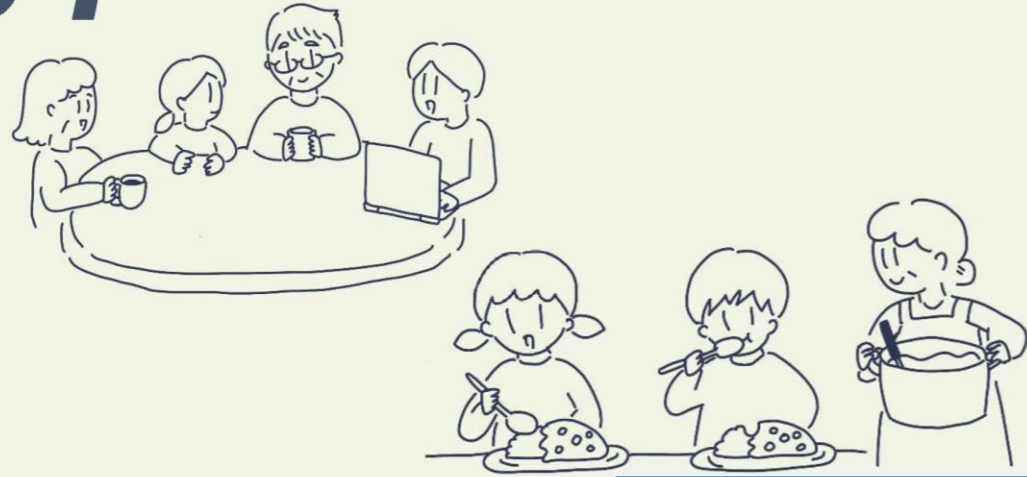
まずは飲食店目当てで来てもらうのもOK!にする

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・市内では「みんなの広場 あきちゃんち」や「さかえーる」などの空き家活用の事例がある！
- STEP3・採算性を考えると、居場所は常設にこだわらずに週末の2~3時間限定で開いても良いのでは？
- STEP4・「モノを売る」「モノを作る」といった要素を入れると、人が集まるようになる！



# 04



テーマ：つながり・支え合い

## 多世代で交流し支え合う 身近な居場所づくり

### プロジェクトの目的

地域の身近な場所に、孤立する子どもや子育てに悩む世代、高年者や多国籍の方などが、多世代でつながり支え合える居場所をつくります。一人ひとりの居場所づくりを多世代で支え合い、子どもの幸せを中心に世代・国籍・文化を越えた居場所をつくることによって、地域交流を広げていきます。

### プロジェクトの概要

子どもや高年者など誰もが気軽に集まれる場として、氷川コミュニティセンターで年2～3回、子ども・子育て世代向けのイベントや、高年者向けのイベントを実施します。吸引力があり、地域コミュニティの中心的な場となるよう、マルシェや子ども食堂のような企画を交え、試運転からはじめて徐々に地域に定着させていきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 空き家バンク
- ◆ 生活支援体制整備事業
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 市街地活性化事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ 都市計画マスタープラン推進事業
- ◆ 地域包括支援センター委託事業
- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 認知症サポーター養成講座
- ◆ ふれあい・いきいきサロン

子ども・子育て支援に関する取組を追加するべき

外国籍の方が増えたが、交流の機会が少ない。地方から来た方や、町会に加入していない人とも交流する場所にしたい

「多世代」に「多国籍・多文化」を追加する

「孤立する子どもや子育てに悩む世代」に限定しなくてもよい

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

● 居場所づくりの協力者  
(企画づくり・運営補助・情報発信が得意な方など)

#### ノウハウをもつ協力メンバーを募集する

- ・円卓会議のメンバー、知人、町会・自治会や商店会、活動団体等に声かけし、活動メンバーを集める。
- ・地域のみなさんがもっている特技や経験・ノウハウを持ち寄る。中心メンバーだけではなく、イベント単発でお手伝いいただける若い人や大学生も含めて広く募集する。

### STEP 2

■ 吸引力があり、かつ参加のハードルの低い企画づくり

#### できることから、交流の場を企画する

- ・取組を継続させるため、最初は無理なくできることから企画する。居場所に必要なのは人を集める吸引力であり、最初から大勢を集めることにこだわらず、集まったメンバーから関係性を広げていく。
- ・中心メンバーの得意分野に応じて、子どもの集まり、高年者の集まり、マルシェ、子ども食堂を企画する。

#### 地区住民に身近なイベントの場所を確保する

- ・みんなが気軽に集まれる場所、子どもが歩いて来られる場所が望ましく、候補地として最初は氷川コミュニティセンターを活用する。
- ・コミュニティセンターのほかにも町会・自治会会館、小学校の空き教室等も活用したい。

### STEP 3

■ クラウドファンディングなど資金調達方法の検討

#### イベントの試運転から始め、徐々に地域に定着させる

- ・年に2～3回実施し、各世代向けに企画を変えて、最初は子ども・子育て世代向けのイベント、次は高年者向けとするなど工夫を凝らす。
- ・野菜販売のマルシェの企画であれば、当番制にしたり場所を駅前に変えたりして、少しずつ活動の幅を広げる。「第二日曜日はそこで何かやっている」ような場として定着させていく。

### STEP 4

#### より身近な居場所づくりへと展開していく

- ・いずれは、みんなが気軽に集まれる場所、子どもが歩いて来られる場所を実施していきたい。
- ・一つひとつの規模が小さくても、毎週どこかに居場所があることをめざしていく。
- ・活動の様子は SNS で発信し、少しずつ認知度を高めて地域との関係性を強めていく。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・子ども食堂を高年者で運営し、子どもと親世代が集まれば、それだけで多世代交流が実現する！
- STEP2・「平成塾」のように学校を使用してはどうか。空き教室を使った子ども食堂の事例もある！
- STEP2・居場所を利用する方が、ときには居場所を運営する役割も担えるような関係性をつくりたい！
- STEP3・街バルのようなやり方（木札を購入しただいてお得なサービスを提供する）もできるかも！

高年者が運営するのではなく、高年者がお手伝いできればよい

外国人のカレー屋さんなどに「母国の遊びや言葉を教えてほしい」等のチラシを配ってはどうか



# 05



テーマ：安心・安全

## 安全なまちをめざした 地域の見守り運動

### プロジェクトの目的

駅を利用する人、住んでいる人にとっての安全・安心のために、見守り運動を推進していきます。また、日常からできる小さな取組から始めることで、地域全体で安心・安全なまちにしようという雰囲気づくりにつなげていきます。

### プロジェクトの概要

地域のどんな方でも気軽に取り組める夜間ライト点灯による見守り運動を実施します。地域の見守り運動を推進していくための体制づくり、雰囲気づくりを行います。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ こどもひなんじょ
- ◆ 自主防犯活動・自主防犯活動補助金
- ◆ 巡回指導員（警察OB）によるパトロール活動
- ◆ 家族介護支援事業
- ◆ スクールガード・リーダー

歩きスマホの防止にもつながるのではないかな。

効果確認は難しい。無理に効果確認をしなくてもよいのでは？  
● ライトをつけている人が多い＝ボランティアが多い？  
● 安全性の検証？

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 夜間ライト点灯による見守り運動の企画する

- ・中心メンバーと賛同者で、スマートフォンや懐中電灯などのライトを点灯しながら夜間に歩くことで、まちなかの見守り運動をする「(仮称)ホテルの安心・安全運動」を企画する。
- ・小中高生が塾の帰り道などに安心して帰れるように夜間の時間帯で検討する。時間帯と対象エリアを決めることで、協力してくれる団体等を決めやすくする。

▲ 取組を周知するためのチラシやポスターなど

### STEP 2

#### 取組内容を周知・協力者を募る

- ・町会・自治会や学校、地域活動団体などに協力を仰ぎ、企画の実現をめざす。
- ・駅前などでチラシを配り、SNSなども活用して、企画を周知し、協力者を募る。

### STEP 3

#### 夜間ライト点灯による見守り運動を実施する

- ・まずは期間を定めて、一定期間実施する。
- ・「なんでみんなライトをつけているんだろう」「こんな見守り運動をやっているんだ」と疑問に思ってもらい、興味を持ってもらうことで、地域の防犯意識向上につなげる。

### STEP 4

#### 効果確認・改善・体制の構築をする

- ・協力者や地域の意見を募り、効果を確認・改善する。
- ・協力者と連携しながら、継続的な実現に向けた検討を行い、体制を構築する。

継続性を考えるには参加のメリットはなにかを考える必要がある。

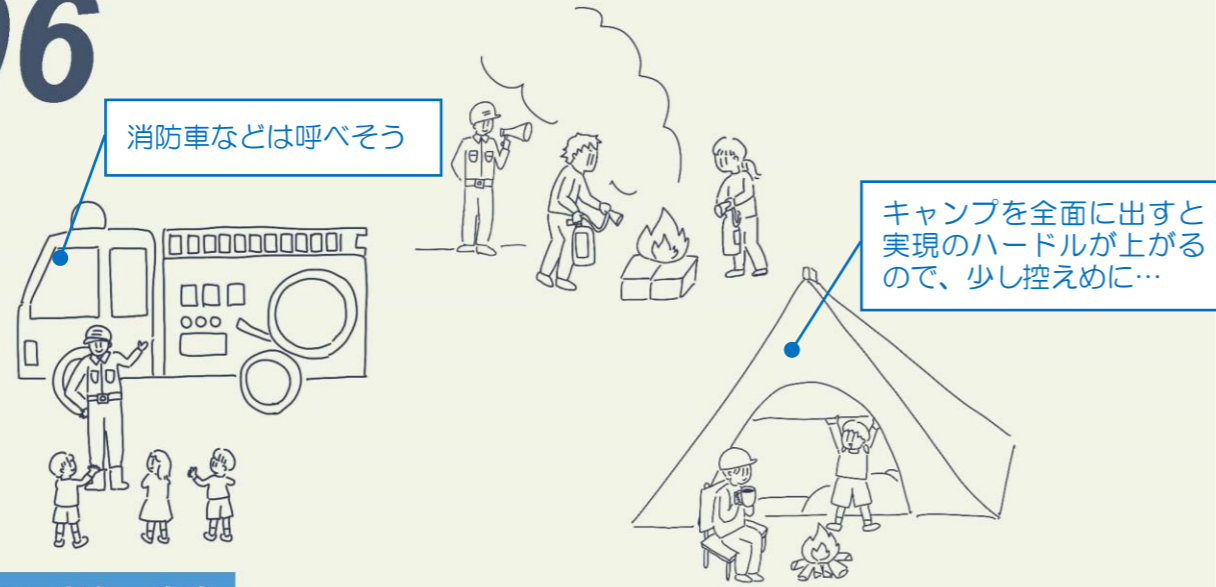
- ・スポーツ化をすることによる健康促進？
- ・ミッドナイトツアー化？
- ・どこかでお酒が飲める、ご飯が食べられる？

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・小中高生が塾の帰りなどに安心して帰れるような環境づくりが必要では！
- STEP1 ・仕事帰りのサラリーマンや買い物途中の主婦などが、スマートフォンでライトをつけているところを歩いていることで、街中を照らす活動になるのではないかな！
- STEP5 ・日常的にできる小さな取組を積み重ねることで、地域全体で安心・安全なまちにするという雰囲気ができるのでは！



# 06



テーマ：安心・安全

## 公園や空地を活用した『子ども』×『防災』イベント

### プロジェクトの目的

ただ楽しむだけでなく、学習が大事

主に子どもを対象とした防災イベントを通じて、自ら防災のことを考えるような機会をつくるとともに、多世代交流の実現や一人ひとりが地域に関心を持つきっかけにします。また、住民同士のつながりを強めることで、将来的にはまちづくりを主体的に進めていけるような地域コミュニティを育てていきます。

### プロジェクトの概要

地域の子供達をターゲットに工夫を凝らした防災イベントを、地域の学校や避難所運営委員会等と連携しながら、企画・実施します。まずは学校に宿泊体験する「防災キャンプ」を企画・実施し、その経験を踏まえて発展させながら、「子ども」と「防災」をキーワードに様々なイベントを継続的に実施していきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 危機管理体制整備事業
- ◆ 自主防災活動等進事業

## プロジェクトの全体像

町会自治会の防災・防犯の活動や、地元の消防団の人、子ども会育成連絡会の人などに参加してもらう

### STEP 1

関心のあるメンバーで集まり、企画の全体像や将来像などを話し合う

- ・防災や子ども・子育て支援、多世代交流などに関心のある人や関係者が、円卓会議のような場を活用して話し合いの場を設ける。
- ・話し合いの場では、防災のことだけでなく、この取組を通して将来的にどのような地域になってほしいかといったゴールまでを含めて、話し合いと共有をする。

### STEP 2

「学校でキャンプ」についてももっと詳しく調べよう！を追加しては？

子ども会育成者連絡会議が行っている「学校でキャンプ」を参考にする

防災イベントの対象者像やこだわりポイントなどを具体化する

- ・STEP1 で集まったメンバーを中心に、子どもが楽しめる内容で、かつ地域の様々な世代（子育て世帯だけでなく、高齢者などを含む、多様な世代・立場の人）も参加できるような企画をつくる。
- ・「不意打ちで電気が消える」「お化け屋敷のような雰囲気にする」など、子どもの興味を引く内容にする。

「(仮称) 防災キャンプ」を企画する

- ・初回のイベントとして、学校の体育館に親子で宿泊体験しながら避難所の生活を疑似体験し、避難所の運営にも協力する「(仮称) 防災キャンプ」を企画する。

### STEP 3

小学校として(実施にあたり)「してほしいこと」を確認しよう！を追加しては？

避難所となる地域の小学校や避難所運営委員会の委員と連携する

「(仮称) 防災キャンプ」を実施する

- ・「(仮称) 防災キャンプ」を小学校の体育館で、その他の関連する防災イベントは公園や柳島治水緑地等を活用して実施する。実施に当たっては、地域の学校(避難所)や避難所運営委員会等とも連携して行う。
- ・防災イベントを通して、災害時の避難所運営のトレーニングや検証も行う。

### STEP 4

取組を地区内の他の防災訓練や子ども向けイベントに波及させる

防災イベントを振り返り、活動をさらに継続・発展させる

- ・実施に関わったメンバーや、学校や避難所運営委員会などの関係者が集まり、イベントの参加者層や感想がどうであったか、交流や地域への関心の高まりにつながったか、実際の避難所運営に向けての検証といった視点で振り返りを行う。
- ・「(仮称) 防災キャンプ」をシリーズ化するなどして、一回限りのイベントに終わらず、継続的な開催につなげる。

日常の中に(定例の)イベントとして入れていく。ただし、災害のリスクは非日常感を感じさせるものにする。

STEP1・風水害はある程度予測ができるため、地震(突発的な災害)に限定した訓練にしよう!

STEP2・「いざという時には自分たちで避難所を運営するんだ」という意識につながると良いのでは?

STEP4・防災イベントは、防犯などのより身近な地域課題に気づき、まちに関わる入口(きっかけ)になる!

#### ▼ 地区別懇談会であがった



# 07



テーマ：にぎわい・交流

## 誰でも気軽に立ち寄れる場づくり

### プロジェクトの目的

目的を持たずにふらっと立ち寄ることができて、「あそこへ行けばいつも何かやっている」という場をつくることで、子育て世代、若者、定年退職後の世代など、世代問わず様々な方の居場所を確保します。

### プロジェクトの概要

まずはその時々でテーマを決めて、小さなイベントを試行することから始めます。試行を繰り返す中でニーズを把握し、場所やイベント内容を徐々に絞り、場を定着させていきます。最終的には場所を固定化し、誰でも気軽に立ち寄れる居場所をつくります。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 生活支援体制整備事業
- ◆ 子育て世代包括支援センター運営事業
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ ふれあい・いきいきサロン
- ◆ 地域包括支援センター委託事業
- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 「誰でも気軽に立ち寄れる居場所」のイメージを共有する

・中心メンバーと賛同者で、最終的な場のイメージについて話し合い、共通認識を持つ。

### STEP 2

- 会場の確保
- ▲ イベントの参加費

#### 居場所づくりに向けたイベントを企画する

・プロジェクトの第1歩としての小さなイベントの試行に向けて、STEP 1のメンバーでイベントのテーマと内容を検討する。その際、食・本・音楽・写真など、世代を問わず参加できるテーマを検討する。

・会場としてカフェ等のお店やコミュニティセンター等の公共施設が考えられるが、いずれも若い世代の参加を促すために、おしゃれで居心地が良い雰囲気づくりを大切にします。

### STEP 3

- チラシの作成
- SNSの開設・投稿

#### 協力者を集めてイベントを具体化し、周知する

・イベントのテーマと内容を踏まえ、協力いただきたい個人や団体への声掛けを行い、協力者を集めてイベント内容を具体化する。その際、協力可能な曜日や時間帯、専門スキル等は人によって異なるため、適材適所で役割分担して進める。

・イベントチラシの作成や SNS の開設・発信等により、イベントの周知を行う。

### STEP 4

まずは、地区内で定期的で開催されている活動やイベントと連携する形で企画できると良い。

#### イベントを試行する

・STEP 3までの企画を踏まえ、小規模なイベントを試行する。その中で、参加者数や年齢層、属性、参加者の反応などを記録し、ニーズを把握する。

・プロジェクトに興味関心がありそうな方へは、適宜声掛けをして仲間を増やしていく。

### STEP 5

#### 誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりを進める

・イベントの試行を繰り返す中で、場所やイベント内容を徐々に絞り、「あそこへ行けばいつも何かやっている」という場所として認識されるようになる。

・最終的には場所を固定化し、誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりをめざす。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・インタビュー等によりニーズを把握した上でテーマを決めると良いかも。
- STEP2・飲食店の空き時間を使わせてもらえるかも！ただし、店側にとってもメリットになるよう配慮する



# 08



テーマ：にぎわい・交流

## 草加西部地区の魅力PR

### プロジェクトの目的

地区内には様々な資源があり、そういった資源をもっとPRすることが求められます。そこで、埋もれたまちの魅力を地区住民や地区外居住者向けにPRし、まちを知ってもらうことで、居住者や来街者が増え、まちににぎわいが生まれます。

### プロジェクトの概要

地区住民と活動団体が協力して、まち歩きや文献調査、インタビュー等様々な方法で地区の魅力を収集し、SNS や広報誌等の情報媒体を使って地区内外へ発信します。興味関心を持った方を活動メンバーに迎え入れながら、徐々に活動を広め、地区に定着させていきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

◆ 観光推進事業

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 地区の魅力をPRする方法を検討する

- ・活動の中心メンバーと賛同者で、地区の魅力をPRする方法について検討する。例えば、全年齢を対象とした広報誌の発行と、若者向けの SNS 開設などを行う。
- ・PRする内容は、地区の魅力をより深く知ってもらえるように、写真をメインにして、その場所にまつわるエピソードとセットで発信する方法等を検討する。

### STEP 2

色んな方から地区の魅力を募集する方法を考えられると良い！

● 写真やイラストなど自分の好きなことや趣味を情報発信に生かしたい方

#### PRに使用する地区の魅力を探す・集積する

- ・歴史的な場所やモノ、お店、まちなみ、日常の風景など、PRしたい地区の魅力を様々な方法で収集する。例えば、地図を囲んでアイデア出し、まちを歩きながらの写真撮影、地区にまつわる文献調査などを行う。
- ・収集した内容に関係する方やお店の方へのインタビューを通して、その場所にまつわるエピソード等を聞き出し、記録しておく。
- ・収集活動を継続的に行うことで、PRに使用する「地区の魅力」の情報を集積する。

### STEP 3

■ 広報誌の編集・印刷・発行  
■ SNS の開設・投稿

#### 情報を整理し、PRに向けて準備する

- ・STEP 2 で集積した情報を基に、PR内容やテーマを検討し、PR用に情報を整える。
- ・STEP 1 で検討したPRの方法に応じて、広報誌の作成、SNS (Instagram) の開設を行う。
- ・広報誌はデザインのスキルがある方に作成協力を依頼しつつ、メンバーの誰もが編集・印刷・発行しやすいフォーマットとしていくことも検討する。SNS については管理・投稿ルールを決めるなど、誰もが利用しやすいPRツールとなるよう環境を整備する。

#### 地区の魅力を発信する

- ・継続的な広報誌の発行、SNS への投稿を行い、地区の魅力を発信する。
- ・広報誌は多くの方の目に留まるように、地区内のお店や公共施設に設置してもらう等の工夫をする。

内容にあわせて、「グルメ」など、ハッシュタグを付けて投稿すると多くの人に興味関心を持ってもらえる。

### STEP 4

#### 一緒に活動するメンバーを募集する

- ・プロジェクトに興味関心を持った方や、大学生、写真が趣味の方、文章が得意な方等を活動メンバーに迎え入れながら、徐々に活動を広めて定着させていく。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・インフルエンサーが SNS にアップしてくれると、なによりのPRになる。
- STEP1 ・その時々で対象者とテーマを決めてPRする方法が考えられる。
- STEP3 ・大学生等の若い方に SNS の運用に協力いただくことや、既存のメディアに協力いただくことも！



# 09



テーマ：にぎわい・交流

## 地域交流のきっかけとなる マルシェの開催

「マルシェ」ではイメージが湧かない方もいるので「青空市場」という表現も追加する

### プロジェクトの目的

コロナ禍でコミュニティが分断され、外出しない高齢者が増えているため、身近な場所にマルシェを開き、外に出て人が集まるきっかけをつくり、地域交流を促進します。マルシェに立ち寄ることをきっかけとして疎遠になった地域との関係性を取り戻し、地域のにぎわいや交流を再構築していきます。

「再構築」を「新たに作り直す」という分かりやすい表現にする

### プロジェクトの概要

国道4号以西など駅前から離れたエリアで、公共施設や町会・自治会会館、公園等を利用して定期的なマルシェを開催します。多世代交流や地産地消につながるよう、マルシェでは農家や子ども食堂等と連携していきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 地域包括支援センター委託事業
- ◆ 都市農業育成・共生支援事業

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

野菜販売のニーズ調査

#### ターゲットとする地域を検討する

- ・円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。駅前から離れたエリアを対象とし、まずは国道4号以西の西町周辺（西町立野町会、西町第一町会、西町第二町会）をターゲットとして検討する。
- ・マルシェを開く場所は、コミュニティセンター等の公共施設や公園、路上販売、駐車場、町会・自治会会館の活用などを検討する。

#### マルシェのニーズを把握する

- ・農家の協力者を得るためには一定の収益を見込む必要があり、実際に身近な買物に困っている方はいるかどうか、マルシェの需要があるかどうかニーズを把握する調査を行う。
- ・例えば対象エリアの関係町会・自治会にインタビュー調査を行い、地域の方の困りごとや買い物ニーズについて確認する。

### STEP 2

地元の野菜農家や販売店の協力者

#### マルシェの協力者を募集する

- ・野菜を直売している地元のお店や農家さん、地域周辺で野菜や果物の農園を営んでいる地元の方に協力を呼び掛ける。

### STEP 3

販売する場所・施設の確保  
利用許可等の手続

#### マルシェを開く

- ・対象エリア内の公共施設や公園等でマルシェを開催する。他にも、路上販売や駐車場、町会・自治会会館の活用も検討する。
- ・公共施設の予約や人的支援など最初は行政に協力してもらい、利益が出てくれば自主運営に移行していく。

### STEP 4

#### 新たなニーズにも対応し、マルシェを拡大していく

- ・一定の集客と収益が出れば定期的にマルシェを開催する。マルシェを継続し「また会えたね」と言い合える場をつくる。さらに他の町会・自治会にもエリアを拡大し、交流の輪を広げていく。
- ・防災キャンプのイベントにマルシェとして参加するなど、「交流の再構築」の先の「新たな出会いとにぎわいの場づくり」にも展開していく。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイディア

公園のトイレやテントなど、開催環境が整っている町会に企画を売り込むとよい

- STEP2・有機野菜を直売しているお店に、協力を呼び掛けてはどうか！
- STEP2・八幡町のシェアアトリエ「つなぐば」のような場と協力者を確保したい！
- STEP3・ボランティア事業ではないので、一定の集客のため、イベントとしての魅力アップは必要！
- STEP3・地区内の身近な公園で開催すれば、災害時の避難場所の周知なども兼ねることができる！



# 10



テーマ：にぎわい・交流

## 地域の町会・自治会が一堂に会する大盆踊り大会

### プロジェクトの目的

子ども達が自分の住んでいるまちを自慢でき、誇りに思えるように、町会・自治会同士が協力して地域のお祭りやイベントを創出します。高齢化など課題を抱える町会・自治会同士がお祭りを中心として協力し合うことで、子どもから高齢者まで幅広い世代の交流を促進し、住み良いまちづくりにつなげていきます。

### プロジェクトの概要

顔の見える、気心の知れた町会・自治会同士が集まることから始めて、ゆくゆくは小学校の校庭での大盆踊り大会に仕立てていきます。いずれは地元の神社等にもご協力いただき、お神輿が数日かけて西部ブロック全体を練り歩くような、子どもが楽しめて記憶に残る行事にしていきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 町会・自治会活動促進事業

### プロジェクトの全体像

#### STEP 1

● 屋台や盆踊り等の運営経験のある町会・自治会の方

#### 各町会・自治会から活動メンバーを募集する

・これまでは各町会・自治会がそれぞれの場所で盆踊りをやっており、お祭りのノウハウを持つ人も揃っているため、円卓会議を通じて、独自の大盆踊り大会への協力を各町会に呼びかける。

#### STEP 2

■ 町会・自治会との費用負担・年間スケジュール等の事前調整

#### お祭りイベントを企画する

・各町会・自治会からノウハウを持つ人を集め、屋台の出店、やぐらを組んでの盆踊りなど、各町会・自治会のお祭りの特色を合わせたイベントを企画する。

#### イベント規模に合わせて、開催時期や会場を検討する

・開催時期は9～10月頃とする。西部地区の中心でお祭りができる広い場所として、西町小学校や草加小学校を候補地とする。  
・始めは2～3町会からはじめ、いずれは地域内の全町会・自治会が集まる大盆踊りのイベントにしていく。

#### 他のプロジェクトにつながるキーパーソンを発掘する

・町会・自治会合同の盆踊り大会の企画検討を通して、様々なノウハウを持つ協力者とのつながりをつくることで、円卓会議を通してコミュニティプランのその他のプロジェクトの展開にもつなげていく。

#### STEP 3

● イベント運営のボランティア  
▲ イベントや盆踊りに必要な資機材

#### 町会・自治会合同の盆踊り大会を開催する

・1日～2日かけて、昼間は屋台や子どもが遊べるお祭りイベントを行い、夕方からはやぐらを囲んで盆踊りを行う。  
・昼間のお祭りイベントや屋台の出店は、地域の子どもや親子、高齢者の交流の場となるよう、町会・自治会メンバーや地元のお店、活動団体を中心に実施する。

#### STEP 4

#### 住民が誇れる大盆踊り大会へと拡大する

・いずれは地元の神社等にも協力いただき、盆踊りの場を中心に、神社のお神輿が2、3日かけて街全体を回れるような大イベントに育てたい。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・1日限定の子ども食堂やマルシェも開催すれば、子ども・親子を中心に多くの集客が期待できる！
- STEP4・お祭りでは子ども神輿や山車をつくって、子どもが楽しめて思い出に残るイベントにしたい！

遠くへ移動できないような80～90歳代の高齢者に、どうやってお祭りに参加してもらうかは今後の課題である





プロジェクトのイメージが伝わるように、イラストの中に様々な国の国旗を追加すると良いのでは

テーマ：にぎわい・交流

## 母国の文化や言葉の交流による関係づくり

### プロジェクトの目的

地域に関わりたいが接点がない、生活上の困りごとがあるが解決の方法がわからない、といった外国人の方がいる一方で、その方々とのように接したら良いかわからない、という地区住民がいます。そこで、外国と日本の文化をテーマとして交流する機会をつくることで、お互いにとって暮らしやすい地域をめざします。

### プロジェクトの概要

市内に居住する外国の方と地区住民を対象に、気軽に、楽しく交流できる機会として「文化交流」をテーマにしたイベントを開催します。その中で、生活上の困りごと等を聞き取り、解決に向けて対応します。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ コミュニティセンター管理事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 国際交流事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ ふれあい・いきいきサロン
- ◆ 国際相談コーナー

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 交流する方法やテーマを具体化する

- ・円卓会議を通じて、中心メンバーと賛同者で、外国人の方と地区住民が交流する方法やテーマを検討する。例えば、「各国の様々な文化」をテーマとした、食・音楽・昔遊び等での交流が考えられる。
- ・事前に市や公的機関が所有するデータ等の閲覧、関係団体等へのヒアリング等により、外国の方の困りごと等に関する実態を把握しておく。

### STEP 2

■ イベントの実施場所の検討

#### 協力者を集めてイベントを企画する

- ・外国の方との接点や専門知識等がある方など、企画・運営に関わってもらいたい個人や団体に声掛けし、協力者を集め、STEP 1のメンバーと協力者で役割分担をしながら企画を具体化する。

### STEP 3

▲ 周知チラシの作成・印刷

#### イベントを周知し、参加者を募る

- ・知人の外国人や外国人コミュニティへの周知から開始する。その際、イベントの趣旨や内容をわかりやすくまとめたチラシ等を多言語で作成するなど、周知する方法を工夫する。
- ・まずはコアとなる方に参加してもらい、そこから徐々に参加者の輪を広げる。

### STEP 4

#### 「文化交流」をテーマにイベントを開催する

- ・STEP 2で企画した内容を踏まえ、小さなイベントから開始する。
- ・イベントの中で、参加者から日頃の生活での困り事等を聞き取る。
- ・プロジェクトへの興味関心が高い方には、次回以降のイベントへのお誘いや、企画・運営への協力依頼をして、参加者と企画メンバーの輪を広げる。

#### 外国の方の困り事解決に向けて対応する

- ・イベントの中で把握した生活上の困りごと等の解決方法を検討し、市の所管課や関係団体等を紹介する等、適切な情報提供を行い、解決に導く。

餅つき、成人式、花見、節分など、日本の行事をテーマに企画すれば無理なく続けられるかも

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2 ・ 獨協大学の留学生等に、主催者側で協力してもらえると良いかも！ その場合は、留学生にとってもメリットがある関わり方で依頼したい。
- STEP2 ・ 楽しい雰囲気づくりができると、自然と人が集まってくるはず！



# 12



テーマ：自然・文化

## 自然・歴史・文化の地域資源を巡るウォーキングルートづくり

ルートづくりをきっかけに地域の魅力を発掘することが伝わるタイトルが良い！

### プロジェクトの目的

散歩しながら地域の貴重な資源である農の風景や歴史的建物・店舗に気づき、楽しむことができる魅力的な歩行者空間をつくります。そして、散歩をきっかけとした住民同士の新たな交流を生み出し、運動の機会が増えることで、住民の健康を維持・促進していきます。

### プロジェクトの概要

地域の緑や文化施設、店舗などの資源を発掘しながら、地区住民が歩いて楽しめるウォーキングルートを検討し、ウォーキングマップを作成します。また、休憩所となる公園や広場などの憩いの場の緑化や地区の特色を示すプレートの設置によって魅力的な景観・屋外空間を創出し、健康維持や住民同士の交流を目的としたウォーキング活動へと展開していきます。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ スポーツ健康づくり事業
- ◆ 観光推進事業
- ◆ 危機管理体制整備事業
- ◆ 自主防災活動等推進事業
- ◆ 草加まち歩きツアー

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 活動メンバーを集めて、地域資源の情報を収集する

- ・ 円卓会議を通じて活動の中心メンバーを集める。町会・自治会や関連組織を通じて、地域に精通した方や活動の趣旨に関心が高い方を探す。
- ・ 書籍やインターネット、市からの情報提供により、地域資源の情報を収集し、地図に落とし込む。

多世代の参加を促すような周知の工夫が必要！

### STEP 2

#### 地域資源の発掘に向けたまち歩きを実施する

- ・ STEP1 で収集した情報を基に、対象エリアを決め、まち歩きを実施する。まち歩きでは、収集した地域資源の確認や、自然・神社仏閣・店舗等の地域資源の新たな発掘、歴史等に関するヒアリングを行う。
- ・ まち歩きは円卓会議や地域コミュニティを通じて、中心メンバー以外の参加者も広く募る。

- ▲ 参加者募集のチラシ
- ▲ まち歩き用の地図や備品

#### 地域資源を巡るウォーキングルートを考え、『ウォーキングマップ』を作成する

- ・ まち歩き結果や収集した地域資源の情報を地図に落とし込み、メンバー間で共有する。
- ・ 地図上で地域資源の取舍選択をし、地域資源を巡るウォーキングルートを考案する。
- ・ ウォーキングルートや考案した名称、その他の自然・神社仏閣・店舗、防災に関する情報を掲載した『ウォーキングマップ』を作成する。

### STEP 3

STEP 2 と STEP 3 を繰り返して、ルートを更新する

- デザイン力に長けた人の協力
- ▲ マップの作成・印刷

#### 魅力的な歩行者空間を新たに生み出す

- ・ 植栽の名前や解説を記したプレートやルートの案内板、神社仏閣の説明表示などを作成し、掲示する。
- ・ ルートの休憩所となる公園や広場を憩いの空間とするために、管理者との協議を踏まえて、植物を植える。
- ・ 町会で行っている「花いっぱい咲かせ隊」によるプランター設置活動の拡大や、オープンガーデンの促進によって歩行者空間の緑化を図る。
- ・ 水路などの小道の路面や壁面に、地域の子どもたちによるアートを施すことで、地域への愛着を育み、魅力的な歩行者空間を創出していく。

### STEP 4

他の地区でもルートを増やして活動を拡大したい！

- 所有者・管理者との連携・協議
- ▲ プレートや案内板の作成

#### ウォーキング活動を開催する

- ・ 作成したウォーキングマップを活用して、住民によるウォーキング活動を実施する。
- ・ ウォーキング活動を通じて健康促進や住民同士の交流を図る。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・ 幅広い世代の意見が集まるとより良いものになる。特に女性の意見が欲しい！
- STEP2 ・ マップには、地域資源の写真や情報、関連するコラムなども掲載するとさらに素敵なものになる！
- STEP2 ・ 神社仏閣などの歴史に関する情報は、専門家の方にチェックしてもらったほうが良い！
- STEP2 ・ マップに広告欄を設けて掲載を募り、宣伝費をもらうことで、作成費に充てられるかも？





どのような場面でキャラクターを使いたいのかを明確にする！

子どもと大人のイメージは異なるため、公募の対象を分ける必要があるのでは？

テーマ：自然・文化

## 地域の魅力を伝える ご当地キャラクターづくり

### プロジェクトの目的

草加西部地区に住む人たちの特徴や個性を表現した、地区オリジナルのキャラクターを作成し、その作成過程を通して多世代交流を図ります。また、でき上がったキャラクターを活用して地域の魅力・情報を発信することで、地域への愛着を育み、活性化につなげます。

### プロジェクトの概要

コンセプトを検討し、地域に関わりのある方を対象にしたキャラクター案の公募を行います。住民参加型の投票などによってご当地キャラクターを決定し、デザイナー監修のもとでご当地キャラクターを作成します。ご当地キャラクターがイベントや情報発信などの様々な場面で活躍できるよう、他のプロジェクトとの連携アイデアを検討します。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 観光推進事業
- ◆ 草加せんべいマスコットパリポリくん

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 活動の中心メンバーを探す

- ・円卓会議を通じてキャラクター作成に向けた活動の賛同者を集める。
- ・STEP2の公募に向けたコンセプト決めなどは少数精鋭で行い、その後の状況に応じて協力者を集める。

### STEP 2

▲ 公募開催周知のチラシ

#### 公募・選定方法やキャラクターのコンセプトを決める

- ・まずは地域の小中学生を対象に、メインキャラクター作成に向けた公募を行う。
- ・その後の展開として、メインキャラクターの家族や友達といったサブキャラクターの作成は公募対象を大人にするなど、多様な公募方法を検討する。
- ・事前の準備として、地域の特色やイメージを中心メンバーで意見交換しながら、公募する際のキャラクターのコンセプトを決定する。
- ・キャラクター作成後の活用シーンを想定し、様々な場面で柔軟に活躍できるようなデザインの汎用性の高さを大切にす。

### STEP 3

町会に協力してもらい  
公募の周知ができるかな？

- 投票会場の手配
- PTAなどの組織との連携

#### キャラクター案を公募する

- ・決定したコンセプトや公募方法・公募対象をもとに、ご当地キャラクターの案を公募する。

#### キャラクター案を選定し、案を元にご当地キャラクターを作成する。

- ・住民参加型の投票などによって、集まったキャラクター案の中からご当地キャラクターを選定する。
- ・選ばれたご当地キャラクターは、地域のデザインに長けた方に協力してもらい、清書をしてもらうことで完成させる。

### STEP 4

地域資源を表すキャラクターを  
作って地域のPRに使いたい！

● デザインに長けた人の協力

#### キャラクターの活用アイデアの検討

- ・完成したご当地キャラクターは、他のプロジェクトと連携しながら、活動やイベント周知時の、チラシや案内板での情報発信といった機会に活用していく。

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2・草加西部地区の人は生真面目でおおらかな印象があり、そのイメージをキャラクターで表現したい！
- STEP2・デザインだけでなく、キャラクターの性格などもコンセプトで考えると面白いかも！
- STEP2・農業を表す緑色、「働き者」を表す青色など、コンセプトカラーがあっても面白いかも！
- STEP4・ウォーキングルートの案内板にキャラクターを用いるという連携アイデアも良いかも！





テーマ：自然・文化

## 農の風景を守っていくための 体験農園・貸し農園の普及啓発

### プロジェクトの目的

「貸し農園」「体験農園」にとどまらず、多様な農業形態を創出したい！

若者や子どもが地域の身近な自然に触れ合う機会を生み、農業の大切さに対する価値観を育んでいきます。さらに、農業の良さをPRし需要を高めることで新たな担い手を確保し、また、体験農園・貸し農園を始めるきっかけ作りをすることで、農の風景を守っていきます。

### プロジェクトの概要

地域に点在する農地を活用して子どもに農業を体験してもらうことで、子ども・親世代に向けて農業の素晴らしさをPRします。また、農地を手放そうとしている農家に貸し農園・体験農園を行うためのノウハウを伝えることや、高齢化などによる担い手不足に悩む農家に対して、農業に関心がある若者とのマッチングを手助けし、農地の新たな活用を模索します。

#### ▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 都市農業育成・共生支援事業
- ◆ 生産緑地指定推進保全事業

## プロジェクトの全体像

### STEP 1

#### 体験農園の協力者や場所の情報を集める

- ・現在貸し農園を運営している農家を中心に、円卓会議や既存の農家のネットワークを通じて、体験農園の実施に協力してもらえる農家の情報を集める。
- ・農家のコミュニティを通じて、農地の維持に困っている方の情報を集める。

■ 多くの子どもに体験農園の機会を持ってもらうための方法の検討

### STEP 2

#### 体験農園の実施

- ・農地を活用して、地域の小学生と親に農業を体験してもらう。
- ・地域の若者や子どもたちに農業の良さをPRするとともに、自然との関わりを通じた豊かな体験の機会をつくる。

段階的に実施することで体験者との関係性をつくる！

■ 貸し農園・体験農園のノウハウの共有方法の検討

### STEP 3

#### 体験農園・貸し農園として活用できる農地を増やす

- ・まずは手軽な体験農園、次に貸し農園と、段階を上げて農業に触れてもらうことで、農業の良さを実感してもらい、地域の農業の需要を高める。
- ・担い手不足で困っている農家や、宅地化されてしまいそうな農地の所有者に対して、体験農園・貸し農園の開業に必要なノウハウを共有し、農地活用の新たな選択肢を持ってもらう。

自分の住む地域で作られた野菜を食べて欲しい！

■ 農業に関する新たなプラットフォームづくり

### STEP 4

#### 農業を通じた新たなコミュニティづくり

- ・体験農園・貸し農園での活動を通して農家同士や、農業に関心がある人たちの新たなネットワークを構築していく。
- ・ネットワークを活用して、さらなる農地の活用方法を模索することや、担い手不足に困る農家と、本格的に農業を始めたい人とのマッチングの手助けをする。

農地や緑地でやりたいことがある人の活動の場所にしたい！

#### ▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2 ・より多くの子どもに農業体験してもらうために、学校やPTAと連携できると良い！
- STEP2 ・自然と触れ合い、ともに汗を流して働くという農業を通じた人間関係は、さわやかで快い素晴らしさがあるので、多くの人たちに実感してもらいたい！
- STEP3 ・農地を維持していくことは、昨今増加している水害対策としての治水機能も持っているの、地域の防災力向上にもつながる取組である！
- STEP3 ・活動を通じて地産地消の価値観も育まれていくので、SDGsにも関連していると思う！



## ワーク②：コミュニティプランの進め方

ワーク②ではプロジェクトの実施を始め、コミュニティプランの進め方について意見交換しました。

### 円卓会議の進め方

- ただ集まって会議ばかりしては、形骸化した組織になってしまう。「具体」の活動が伴うことが大事。まずは小さなことからでも、活動を行うべき。
- モチベーションや積極性の度合いが異なる人達が集まっても、会議を運営していくことは難しい。積極性の度合いが高くない人は意見する機会もなく、抜けていってしまう。
- 町会・自治会等の代表者として会議に参加している人に、会議運営のとりまとめまでしてもらうことは難しい。
- コーディネーターがいないと運営が難しいのではないか。住民がコーディネーターの役割を担うのは難しいのではないか。
- 色々な人が集まるほど企画が丸くなりがちである。尖ったプロジェクトを先行実施し、その失敗や課題を因数分解して議論する、という順番で進めていけるとよい。
- キーマンは誰かを予め整理しておき、「こういうテーマのときはこの人がキーパーソンになる」などと、課題と資源をつなげていけるとよい。
- 参加している人の個々人の利益の場にはならないように留意が必要。

### 円卓会議への参加しやすさ、人集め

- 女性や子どもの参加を促すなど、異なる視点、多様性が重要である。PTA とのつながりを生かして進めていけるとよい。
- 外国人の子どもが参加しても言葉の壁がハードルであり課題である。→ポケトークを使えば解決する。他にもチャット GPT 等、AI 技術を活用したツールも使っていくとよい。
- 新しい人やすでに類似の活動をしている人を巻き込んでいく事が重要。そのためには、参加のしやすさを工夫しなくてはいけない。
- 人をどう集めるかが難しい。自分の町会は 20 班あるが、それ以外の方をどう集められるかが課題である。

### 円卓会議のイメージ

- 問題解決だけの場にせず、あくまで話し合いの場、創出していく場という位置づけが重要。
- 円卓会議自体がプロジェクトのような位置づけになるのではないか。
- 少し良いことをした報告、困り事の報告など、気軽に活動の報告ができるような場となればよいのではないか。
- 円卓会議の場は、地区内の多様な団体が情報発信できる場にもなると良い。例えばお店のオープンを周知するなど。
- プロジェクトから始めて、それが円卓会議につながっていくのではないか。関心事ごとに円卓会議を開催するというのもあり得るのではないか。
- 代表者ばかりが集まって会議しても、カタチだけの組織になってしまう。モチベーションがあり、組織をリードする人材が必要であり、そのような方がトップにいるべき。

### プロジェクトの進め方

- 新しい人や、すでに類似の活動をしている人を巻き込んでいくことが重要。そのためには、参加のしやすさを工夫しなくてはならない。
- メンバーを集めるのが大きな課題。人数を揃えることも大事だし、偏った世代、属性の人だけにならないことも大事。
- 活動の関わり方にバリエーションをもたせよう。「月〇会の定期的な参加」などと固定されると、参加がしづらくなってしまふ。

### その他

- 4章の「地域の中にある資源」は、あまり目新しさを感じられない。
- コミュニティプランの実現にむけては、新しい市長（西部地区に在住）のリーダーシップも必要ではないか